NEWS NETWORK

青森事業本部

「五能線全線開通90周年記念式典」を開催

7月30日の五能線全線開通90周年に先立ち、7月25日にウェスパ椿山駅前にて記念式典を開催。当日は、くす玉開披や「五能線90周年記念号」へのお手振りを行いました。当企画のほかにも、エキタグスタンプラリーやパネル展示も開催。90年間の歩みを感謝するとともに、沿線自治体と連携を一層深め、五能線の魅力向上と地域活性化に取組みました。これからも五能線の100周年、その先の未来へ向けて歩み続けます。



盛岡事業本部

「デイワーク」を活用したりんご農家の援農

盛岡事業本部 盛岡乗務 いわて農業応援団プロジェクトチームでは、農業副業アプリ デイワークを活用したりんご農家の援農に取組んでいます。7月には、約15haのりんご園で9種類のりんごを栽培している紫波長岡果樹園㈱で摘果作業をお手伝い。今年度は、収穫期まで継続して援農を行う予定です。最終目標である首都圏での産直市参加に向け、今後も地域の課題解決と、沿線地域に寄り添う伴走型地域づくりを推進していきます。



仙台事業本部

郡山総合車両とDX意見交換を実施

7月31日、仙台事業本部 指令・輸送品質ユニット（旅客指令）では、業務見学とDXに関する意見交換を目的に郡山総合車両ベースを訪問しました。車両メンテナンス業務では、細かに分かれた各分野の作業が結ばれて安全運転へつながっていると改めて実感。DXに関する意見交換では、郡山総合車両の高レベルなDXについて学びました。学んだ内容を仙台指令に持ち帰り、職場全体でのDX推進の実現に引き続き取組みます。



秋田事業本部

「魅せるメンテナンス作業」を報道公開

秋田事業本部では、サステナブルなモビリティの実現に向けて、構造改革のさらなる推進を行っています。地域の皆さまや当社線を利用されるお客さまへ、日々の設備メンテナンスを広く理解いただくため、DXやドローンなどを活用した設備点検・調査や保線機械によるレール交換などの様子を報道公開しています。この取組みは、社員が自らの業務に誇りを持ち、設備メンテナンスの意義を発信する機会になっています。



山形事業本部

「山形庄内産直市」に参加

7月31日・8月2日、山形事業本部 新庄オペレーションは、東京駅「スクエア ゼロ」で開催された「山形庄内産直市」に参加しました。会場では庄内メロンやだだちゃ豆、地酒、銘菓などが販売され、最上川舟下りをはじめとする戸沢村の自然や観光資源を紹介。8月1日には「はこビュン」を活用し、新庄駅から東京駅までだだちゃ豆を新鮮な状態で届けました。今後も庄内事業本部と山形事業本部で連携し、地域の魅力発信に取組みます。



庄内事業本部

山形庄内 夏の観光キャンペーン ～E653系583系色デビュー～

7月18日、庄内事業本部では、「山形庄内夏の観光キャンペーン」の一環としてデビューしたE653系583系色編成の運行開始を、喜勢社長も出席して祝いました。沿線各地や駅では地元の皆さまが手を振って温かく出迎えていただき、沿線には多くの鉄道ファンも訪れました。デビューに向けた多くの社員の力強い連携とともに、地域の皆さまの温かい応援と期待を感じる一日となりました。



福島事業本部

2026年度 所内安全講話会を開催

7月6日、福島事業本部では所内安全講話会を開催。「なぜやるのか、やらないとどうなるのか」をテーマに、仙台事業本部 阿部 安全のプロが講話を行いました。所内での事象をもとに「法令や省令に基づいて、定められた方法で検査することの意味、重要性」「速やかにありのままに正しく報告する重要性、それがなぜ必要なのか」「鉄道を安全に運行させるためのしくみ」「確認会話」などの内容で、聴講した社員は改めて自分の仕事を見つめ直すきっかけになりました。



浜通り事業本部

フォレストアドベンチャー・長野でのチームビルディング研修

7月14日、浜通り事業本部 いわき乗務では、フォレストアドベンチャー・長野でチームビルディング研修を実施。事業本部化に伴うコミュニケーション力向上とチームワーク強化を目的としたもので、体験型ワークやアスレチックを通じ、仲間との関わり方やチームで成果をあげるために大切なことを学びました。部署や担当業務が異なるメンバー同士の会話も生まれ、研修の成果をより連携のとれたチームづくりにつなげていきます。



水戸事業本部

水郡線の「昼間集中工事」を実施

水郡線では、通勤・通学時間帯を除く昼間の列車を運休して「昼間集中工事」を、年間を通じて計画的に実施。線路設備などの修繕・改良・強化を促進するとともに、作業員の環境改善や働き方改革の実現をめざしています。今後も安全かつ安心して利用いただける水郡線を持続するために、沿線自治体・地域の皆さまのご理解を得ながら取組んでいきます。



土浦事業本部

㈱JR東日本情報システムとの意見交換会を開催

土浦事業本部 土浦乗務では、㈱JR東日本情報システム（JEIS）との意見交換会を開催。オフィスやマシン室の見学では、働き方や確実なシステム運用を支える環境などを学び、意見交換では、輸送総合システムやDTACの運用・保守、問い合わせ対応業務への理解を深めたほか、JEIS大学を通じて出向している社員の生の声を聞きました。参加者からは「次回のJEIS大学に応募したい」「自分たちの仕事がシステム開発に携わる方々に支えられていることをあらためて認識した」といった感想が寄せられました。



栃木事業本部

「クラフトビアフェスタ in JR日光駅」を開催

7月25～26日、日光駅前で「クラフトビアフェスタ in JR日光駅」を開催しました。地域や駅周辺の活性化を目的に、日光市をはじめ、小山市、下野市、栃木市でクラフトビールを手がける4社が出店しました。16種類のクラフトビールなどを販売し、売上は対目標134%の成果をあげ、大変好評をいただきました。



群馬事業本部

ぐんまちゃんが車掌の仕事に初挑戦

8月15日、「GVぐんまちゃん水上」でぐんまちゃんが車掌にデビューしました。群馬県との協働プロジェクトとして実施されている「ぐんまちゃん 車掌に挑戦 出発進行！」の一環によるものです。駅や車内での出発式・グリーティングイベントでは、車掌の制服を着たぐんまちゃんとの写真撮影などが行われ、多くのお客さまで賑わいました。



大宮事業本部

夜間環境での脱線復旧訓練を実施

7月24～25日、川越車両ベース構内において、夜間に脱線復旧訓練を実施しました。夜間帯に発生し得る異常事象を想定して、夜間特有のリスクや注意点について学びました。参加者からは「置き忘れに気づけない可能性があるので、要注意作業だと感じた」「投光器の灯と懐中電灯で十分に作業が可能だとわかった」との感想が寄せられました。



浦和事業本部

若年性認知症当事者をお招きした「駅体験ツアー」を実施

6月16日、埼玉県・さいたま市若年性認知症サポートセンターとのコラボ企画「見えない困りごとを知るためのJR駅体験ツアー」を南浦和駅で実施しました。若年性認知症の当事者の方とご家族をお招きして、駅構内を一緒にめぐりながら不安や課題の把握と、お客さま視点での気づきを共有。認知症への理解を深め、誰もが安心して利用できる駅づくりにつながる貴重な取組みになりました。



武蔵野事業本部

「運転士見習い庫教見学会2026」を実施

7月23・24・27日、武蔵野事業本部コーポレートOPSの主催で「運転士見習い庫教見学会2026」を実施。事業本部発足後初の実施で、22名の社員が参加しました。運転士業務への理解促進やキャリア形成支援を目的としており、現役運転士による運転士養成の説明のほか、安全な構内歩行方法のレクチャー、EC30回生の集中庫教の見学を行いました。JR東日本総合研修センターで実際に使用されている教科書を用意するなど内容の充実を図り、参加者からも活発な質問が寄せられました。



熊谷事業本部

第13回『街なかキレイにスクマム！』に参加

8月6日、熊谷事業本部 ESG推進チームは、JR高崎鉄道サービス㈱、高崎ターミナルビル㈱と「第13回 街なかキレイにスクマム！」に参加しました。熊谷市内の企業や団体が協力し「みんなで、小さな『いいこと』をやってみよう」を合言葉に行う清掃を通じた地域活動で、熊谷事業本部として初めて参加。JR東日本グループから20名が活動に取組み、地域の企業・団体の皆さまと約1時間にわたり、星川シンボルロードの清掃活動を行いました。



千葉事業本部

JR東海 × JR東日本 成田空港駅に「特大荷物測定台」を設置

千葉事業本部 地域共創モビリティユニットでは、成田空港駅と空港第2ビル駅に「特大荷物測定台」を設置しました。JR東海 新大阪駅との意見交換をきっかけとして、同社から譲り受けた測定台を両駅に導入。従来問い合わせの多かった「特大荷物」の取扱いについて、お客さま自身で荷物サイズを確認できるようになりました。出札窓口でも測定台をご案内して特大荷物スペース付き座席の利用が必要かをその場で確認し、予約につなげています。



房総事業本部

マルス（MR）端末操作訓練と千葉駅出札見学を実施

7月27日、房総事業本部 木更津駅では、8月のマルス端末変更に向け、千葉事業本部 営業トレーニングセンターでの操作訓練と千葉駅での出札業務見学を実施。操作訓練では、実際の業務で取り扱う機会の多い事象を中心に新旧端末の相違点や係員交代、締切作業、各種操作方法などを学びました。千葉駅での出札業務見学では、MR端末導入時の経験や活用方法の説明を受けるとともに、帳票類保管庫の見学を通じて管理方法への理解を深めました。



NEWS NETWORK

京葉総武事業本部

車掌63回生向け 安全探求セミナーを実施

8月5日、京葉総武事業本部 津田沼乗務では、車掌63回生を対象に安全探求セミナーを実施。若手社員が過去の事象から安全について学ぶ機会の提供を目的とし、昨年12月に鉄道人身障害事故が発生した大網駅で、現地責任者や駅社員から事故当時の状況や対応、再発防止策を学びました。大月事故展示室では事故概要説明やVR体験、当時の無線交信聴取を通じ、確認会話の重要性や内容を理解せずに作業を行う危険性について理解を深めました。



松戸事業本部

「JR東日本グリーンウォリアーズ東葛」の発足式を開催

7月20日、日本電気㈱（NEC）から継承した新たなラグビーチーム「JR東日本グリーンウォリアーズ東葛」の始動に合わせ、柏の葉公園総合競技場（千葉県柏市）で発足式を行いました。当日は会場に訪れたファンなど1,200人が見守る中、NECの森田取締役代表執行役社長兼CEOから喜勢社長にボールが引き継がれました。また、選手によるトークショーやラグビー体験（パス、タックル、キック）も行い、賑わいを見せました。



東京事業本部

北区桜田保育園で 出前授業を開催

7月30日、東京事業本部 東京乗務 地域共創チームは、池袋事業本部 赤羽駅と合同で、北区桜田保育園にて出前授業を開催しました。電車利用のマナーや鉄道の仕事を楽しく学べるよう、クイズや体験企画を交えて実施。東京乗務と赤羽駅の仕事紹介、踏切の渡り方、スタンパー・赤色旗・合図灯・マジックハンド体験のほか質問コーナーも設け、園児の皆さんに楽しんでいただくとともに、「お仕事がんばってね」と声をかけていただきました。



品川事業本部

長野駅で広域品川圏のPRを実施

7月25日、品川事業本部では、長野駅で「広域品川圏」のPR活動を実施。広域品川圏の認知拡大を目的に、紹介パンフレットを入れた手提げ袋の配布のほか、広域品川圏LINEミニアプリへの友だち登録者を対象とした抽選会を行いました。駅構内を通行中のお客さまへお声かけを行い、パンフレット入り手提げ袋120部を配布し、LINEミニアプリの友だち登録46件につながりました。今後も各地で「広域品川圏」の魅力を発信していきます。



新宿事業本部

新宿区のふるさと納税で、JR新宿・信濃町・四ツ谷の限定エキタグを入手

新宿区のふるさと納税返礼品として、JR新宿駅・信濃町駅・四ツ谷駅の3駅限定のエキタグが登場。12月31日までの期間限定で、「ふるさと納税限定エキタグスタンプ」の受付を行っています。スタンプは、新宿区内のJR3駅限定の地域の魅力と車両をモチーフにした特別なデザイン。スタンプに描かれたモチーフを巡りながら各駅の周辺散策もお楽しみいただき、3駅でしか手に入らない限定デザインのコンプリートをぜひめざしてください。



上野事業本部

庫教見学会を実施

8月19日、上野乗務ベースでは庫教見学会を実施し、上野・松戸事業本部から車掌・駅社員計9名が参加しました。運転士になるプロセスや技能講習の内容紹介、シミュレーターを活用した機器操作体験のほか、営業列車乗務員室での前添乗、尾久駅構内での「非常の場合の措置」訓練の見学を通じ、運転士の業務や事故発生時の対応について学びました。参加者は、運転士業務への理解を深めるとともに、今後のキャリア形成を考える機会となりました。



渋谷事業本部

運行教育訓練を実施

7月10日、渋谷事業本部では、蒲田トレーニングセンターで新入社員を対象とした運行教育訓練を実施。駅社員として、命を守るために必要な「安全」への意識を高めることを目的としています。「駅輸送業務の基本」「触車事故防止」「線路内に立ち入る際のルール」「線路内落とし物拾得」の机上教育の後、保護具を着用の上、訓練線で線路内に立ち入る際の基本動作、軌道中心から3mの範囲、線路内から見た車両の大きさなどを体感。ホーム上では、赤色旗や列車接近警報装置を用い、進入・進出時の列車を止める訓練も実践しました。



池袋事業本部

中学生の職場体験を実施

池袋事業本部 事業推進部 地域共創モビリティでは、7月22～24日に板橋区立板橋第三中学校の生徒２名の職場体験学習を実施。普段見られない駅のバックヤードや輸送業務・営業業務の見学・体験で、鉄道を支えるさまざまな仕事を学びました。車掌体験や運転士シミュレーター体験では終始笑顔が見られ、鉄道の仕事の魅力を存分に感じていただけました。ダイヤグラムを見つめる真剣な表情には、鉄道への強い興味と探究心があふれていました。



八王子事業本部

デジタルよろず相談所と警視庁のコラボで啓発活動を実施

7月27日、八王子事業本部では、八王子駅で毎月開催している「デジタルよろず相談所」と、警視庁防犯アプリ「デジポリス」の普及啓発活動をコラボで実施しました。コンコースに大型懸垂幕を掲出するとともに、多くのお客さまに「デジポリス」の機能や活用方法を紹介しました。「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」の実現に向けて、今後も取組みを進めていきます。



立川事業本部

第2回「上1マルシェ」を開催

8月1日、立川駅2番線ホームとE233系12両編成の車内を使用して、「上1（じょういち）マルシェ ～ワクワクトレインにみんな集まれ～」を開催しました。各号車ではグループ会社や音楽大学等と連携して、体験コンテンツやワークショップなどを展開。昨年よりレベルアップした内容をお届けし、多くのお客さまに立川エリアの魅力を発信しました。



横浜事業本部

桜木町駅初のマスコットキャラクターが誕生

8月15日、駅改称111周年*を迎えた桜木町駅に、マスコットキャラクター「サチらいおん」が誕生。桜木町に集まる人々の“わくわく”や“キラキラ”を表現した桜のたてがみと、駅開業当時の制服デザインが特徴で、駅と街を見守る存在になるよう願いを込めました。また、名前には電略の「サチ」を取り入れており、お客さま・社員に“幸せ”が訪れるよう想いをのせています。

＊1915年に2代目横浜駅が開業し、初代横浜駅だった同駅を桜木町駅に改称



川崎事業本部

鶴見駅主催「鉄道写真展 ～ 鶴見線とJR東日本のおススメ列車 ～」を開催

8月22～25日、鶴見駅主催の「鉄道写真展 ～ 鶴見線とJR東日本のおススメ列車～」を開催しました。鶴見線に親しみを持っていただくことを目的に、近隣の保育園・学校や川崎事業本部社員から募集した鉄道写真を展示。来場者からは、「昔の鶴見線の車両が懐かしかった」「鉄道の旅に出かけたくなった」などの声が寄せられ、鶴見線の魅力発信だけでなく、鉄道や旅行への関心を高める機会になりました。



湘南伊豆事業本部

小田急電鉄㈱、江ノ島電鉄㈱との意見交換会を実施

8月3日、湘南伊豆事業本部 藤沢駅では、小田急電鉄㈱ 藤沢駅および江ノ島電鉄㈱ 藤沢駅と異常時対応や災害時の連携強化を目的に意見交換会を実施。4・5月に発生した異常時の入場規制や情報共有体制、お客さま案内のあり方について、現場レベルでの課題共有を図りました。津波発生時の各社の対応や日常業務での課題について意見を交わす中で、実務を担う社員同士の相互理解が深まり、3社の連携強化につながりました。



新潟事業本部

SL「C57 180」の製造80周年企画を実施

8月8日、「SLばんえつ物語」を牽引するSL「C57 180」が80周年（傘寿）を迎えました。これを記念して、車体の一部に傘寿のお祝い色とされる紫色の特別塗装を施して運行（今年の定期運行終了日まで実施予定）。ほかにも、限定エキタグを設置したスタンプラリーや音声ARサービスLocatone™（ロケトーン）を使用し80年の歴史を乗車しながら体感できる企画を実施しています。



長岡事業本部

「長岡まつり大花火大会」の輸送対応を完遂

8月2～3日、36万人の方が「長岡まつり大花火大会」へ来場し、会場最寄りの長岡駅では、長岡・新潟事業本部の社員が中心となって、お客さまへのご案内やホームの安全確保などに努めました。特に今年度は、花火大会の人気プログラムの時間変更を踏まえた対応を実施。駅前での方面別案内や臨時改札の開設により、ご利用のお客さまに安全に駅を利用いただきました。



山梨事業本部

山梨県初！ 高校生向け説明会を開催

7月30日、山梨事業本部では山梨県内で初の高校生向け会社説明会を開催しました。県単位採用を見据え、地元高校生との接点をきめ細やかに創出することを目的に実施。3名の参加者には少人数ならではの近い距離感を活かし、説明やディスカッションを丁寧に行いました。後半には甲府駅や乗務ベースの見学も実施し、入社後の働く姿を具体的にイメージできるよう工夫しました。今後も当社に興味を持つ学生を増やし、採用につなげていきます。



長野事業本部

「信州デスティネーションキャンペーン プレキャンペーン（プレDC）」を開催

7月1日～9月30日、2027年夏の「信州デスティネーションキャンペーン（信州DC）」に先駆け、「プレDC」を開催しました。7月4日には、長野駅でオープニングセレモニーと「HIGH RAIL 1375」による団体専用臨時列車「知ってほ信州号」の出発式を実施。期間中は長野県内各地でプレDCの関連イベントを行い、信州DCに向けた機運醸成を図りました。



松本事業本部

「リゾートビュー諏訪湖」で夏を彩るおもてなしを実施

7月25日、松本事業本部では、臨時快速列車「リゾートビュー諏訪湖」の運行に合わせ、長野～富士見間の車内や沿線各地でおもてなしを実施。信州デスティネーションキャンペーン プレキャンペーン（信州プレDC）を盛り上げ、諏訪エリアの魅力を発信することを目的に、地域と連携してお客さまをお迎えしました。沿線各地が一体となったおもてなしを通じて、諏訪地域の自然・歴史・文化の魅力を体感いただく機会となりました。

